

3. 通院

■ HIV 治療を目的とした受診

回答者 908 人のうち、HIV 治療を目的として医療機関へ受診している方は 881 人 (97.0%) であり、中断 7 人 (0.8%)、未受診 14 人 (1.5%)、受診予定 6 人 (0.7%) でした (図 3-1)。受診している方 881 人の受診先は、エイズ拠点病院 756 人 (85.8%)、エイズ拠点病院以外または不明の病院 29 人 (3.3%)、診療所・クリニック 69 人 (7.8%) などでした (図 3-2)。その通院頻度は、1 ヶ月に 1 回程度 112 人 (12.7%)、2 ヶ月に 1 回程度 124 人 (14.1%)、3 ヶ月に 1 回程度 594 人 (67.4%) で、3 ヶ月に 1 回程度が半数以上を占めました (図 3-3)。

図3-1 HIV治療の定期的な医療機関への通院 (n=908)

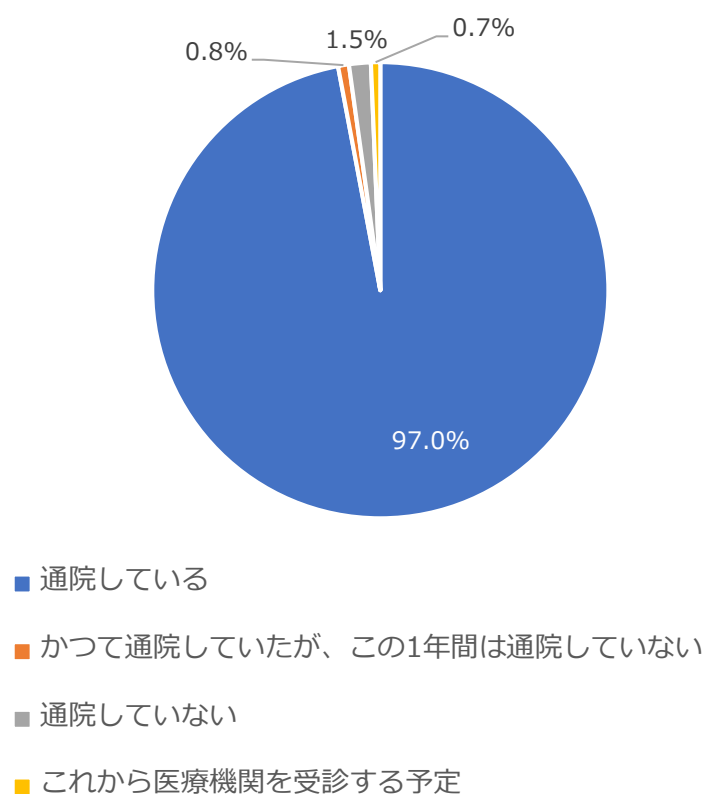
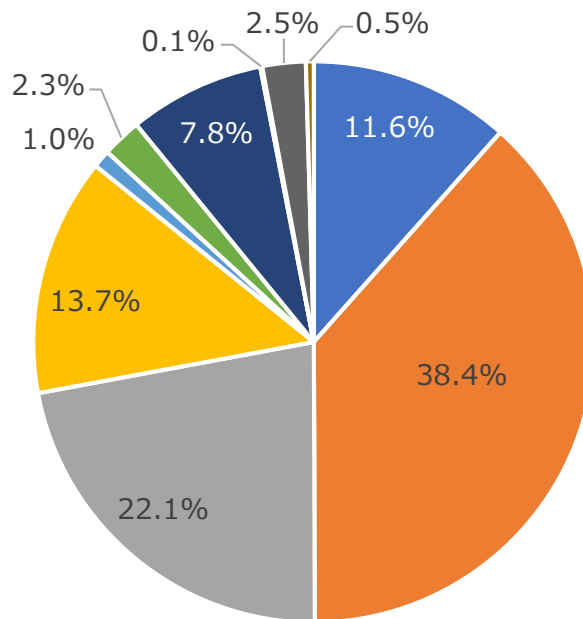
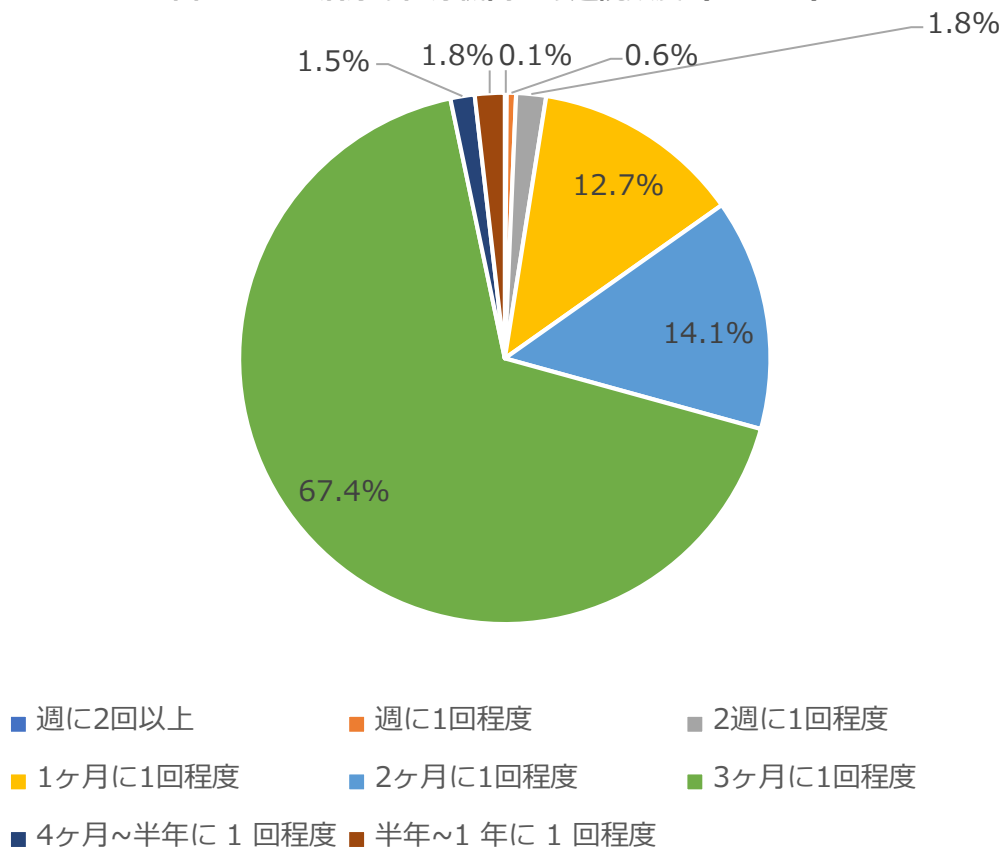


図3-2 HIV治療を目的とした通院先 (n=881)



- エイズ治療・研究開発センター(ACC)(国立国際医療研究センター)
- ブロック拠点病院
- 中核拠点病院
- 上記3つ以外のエイズ治療拠点病院
- エイズ治療拠点病院以外の病院
- エイズ治療拠点病院かどうか不明の病院
- 診療所・クリニック
- その他
- わからない
- 無回答

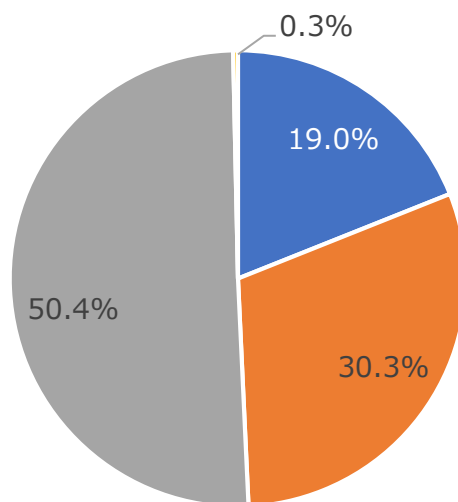
図3-3 HIV治療の医療機関への通院頻度 (n=881)



■ 医療スタッフ（主治医・看護師・薬剤師・ソーシャルワーカーなど）との意思疎通

受診している方 881 人のうち、医療スタッフに話したい（伝えたい・聞きたい）ことがあるのに話すことができなかった経験のある割合は 167 人（19.0%）でした（図 3-4）。話せなかった理由は（複数回答可）、「医療スタッフが忙しそうにしているから」66 人（39.5%）、「自分にとっては重要な内容だが、医療スタッフはそう思っていないと感じるから」60 人（35.9%）、「医療スタッフの前では『良い患者』を演じてしまうから」52 人（31.1%）などでした（図 3-5）。また、話せなかった内容は（複数回答可）、医療に関連した問題では「体調の悪化や気になる症状・つらさ」「他の性感染症、HIV の再感染、薬剤耐性についての不安」、日常生活上の現実的問題では「仕事や学校での悩みや苦勞」「性生活にまつわる悩みや疑問」、人間関係上の問題では「職場に感染の事実を話すかどうか」「パートナー・配偶者や家族に感染の事実を話すかどうか」「恋愛や結婚について」、心の健康に関連した問題では「気持ちの落ち込みや不眠」「日常的なストレスやその解消方法について」などでした（図 3-6）。

図3-4 医療機関の医療スタッフと話したいことがあるのに話すことができないという経験 (n=881)



- 話したい（伝えたい・聞きたい）ことがあったが話せないという経験があった
- この1年間は、特に医療スタッフに話したい(伝えたい・聞きたい)ことがなかった
- 話したい（伝えたい・聞きたい）ことがあったが話せないという経験がなかった
- 無回答

図3-5 話せなかった理由 (n=167)

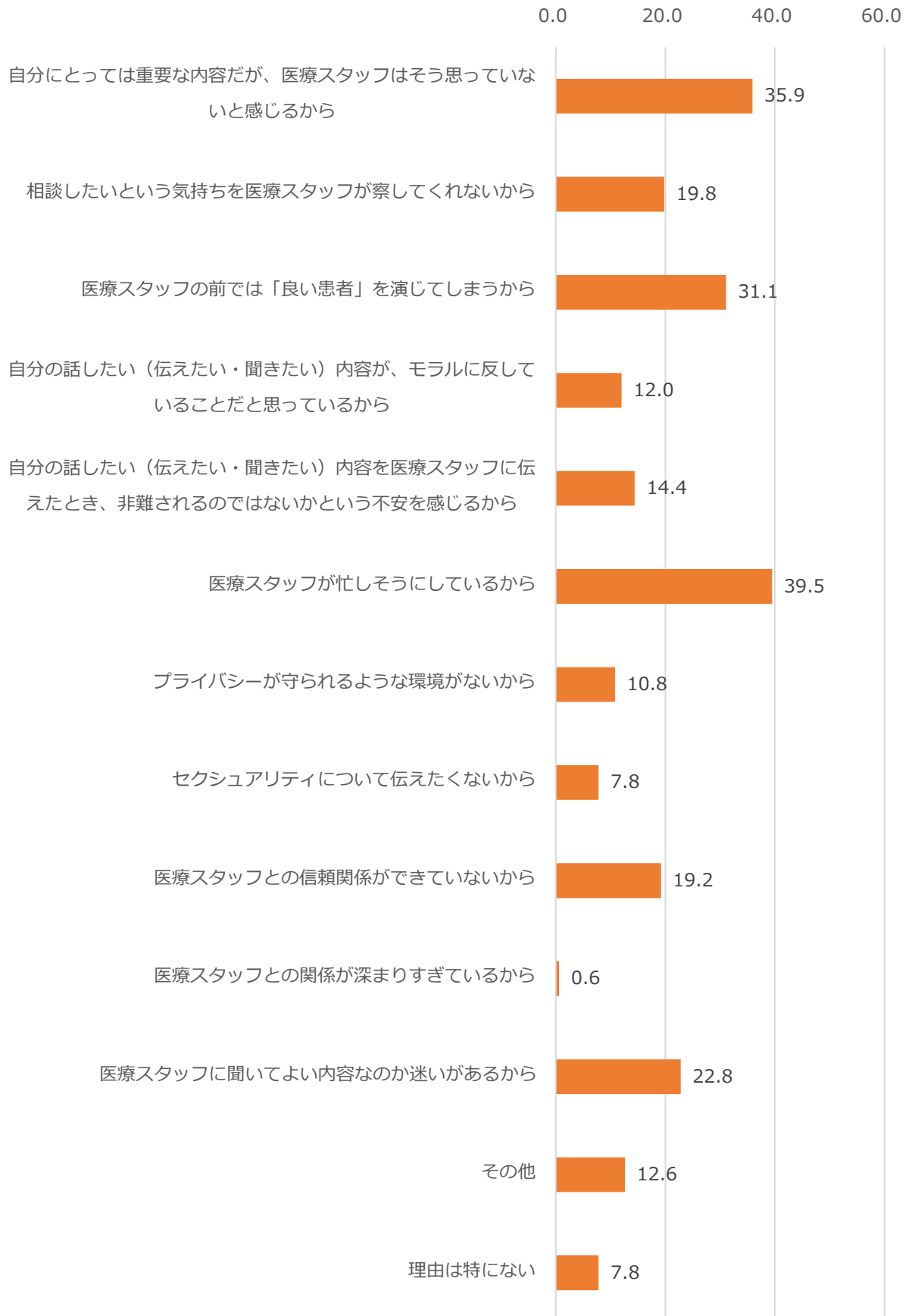
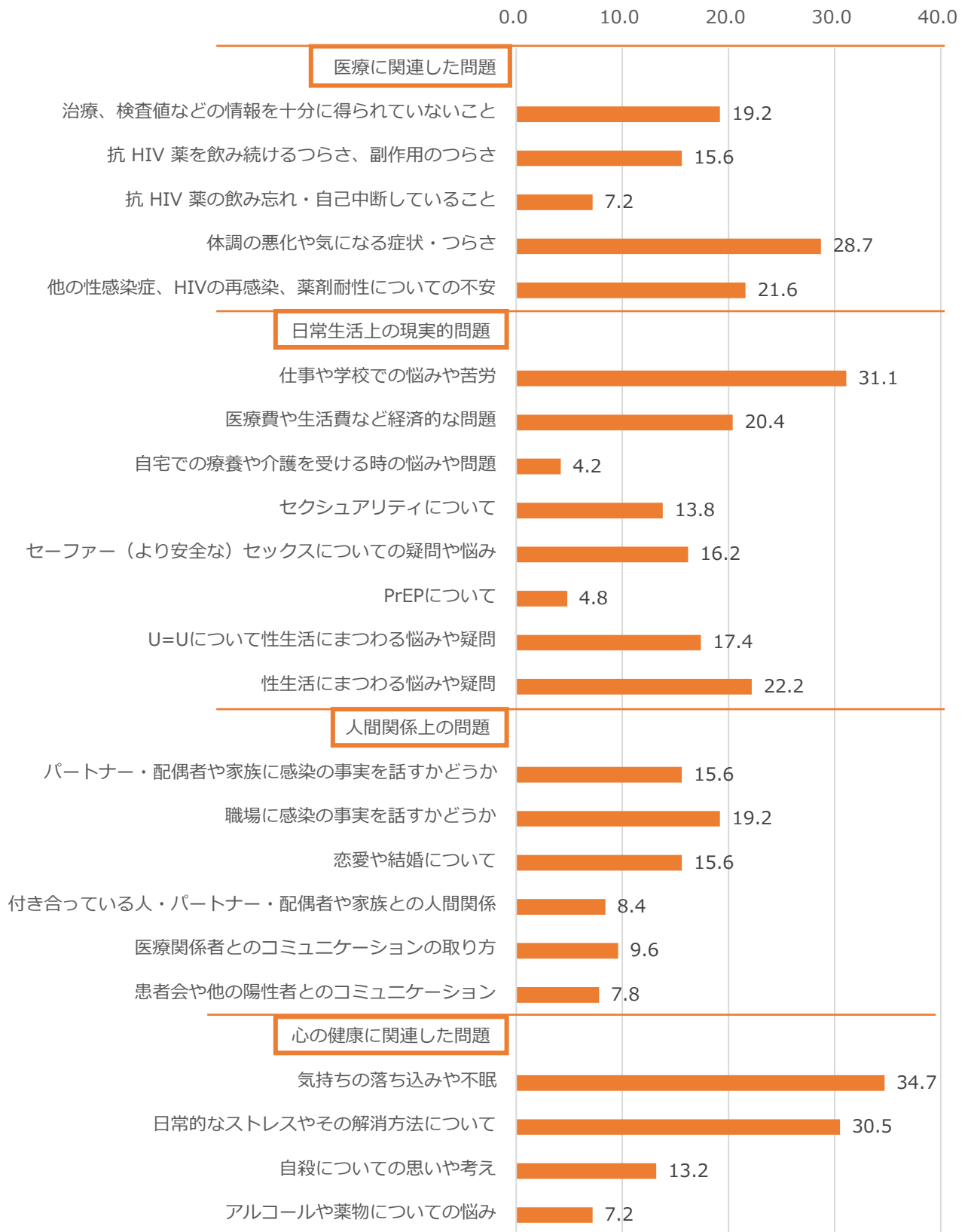


図3-6 話せなかった内容 (n=167)



■ 医療機関の満足度

受診している方 881 人の医療機関の満足度は、非常に満足 443 人 (50.3%)、やや満足 344 人 (39.0%)、やや不満足 87 人 (9.9%)、非常に不満足 7 人 (0.8%) でした (図 3-7)。全体の 1 割程度の方 94 名 が医療機関に不満を感じており、その理由を自由記載でお尋ねしたところ、“親身に相談にのってくれない”や“気軽に質問がしにくい”等の「医療スタッフ (主治医・看護師・ソーシャルワーカー等) の対応」、 “遠い”や“交通が不便”等の「医療機関へのアクセス (距離・交通手段等)」, “平日しか受診出来ない”や“予約制なので急な診察をしてもらえない”等の「予約日時 of 制限」などがありました (図 3-8)。

図3-7 医療機関の満足度 (n=881)

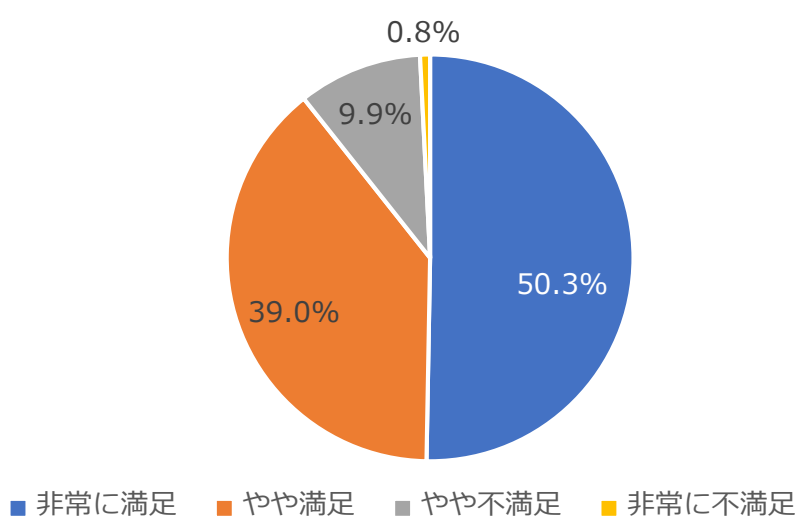
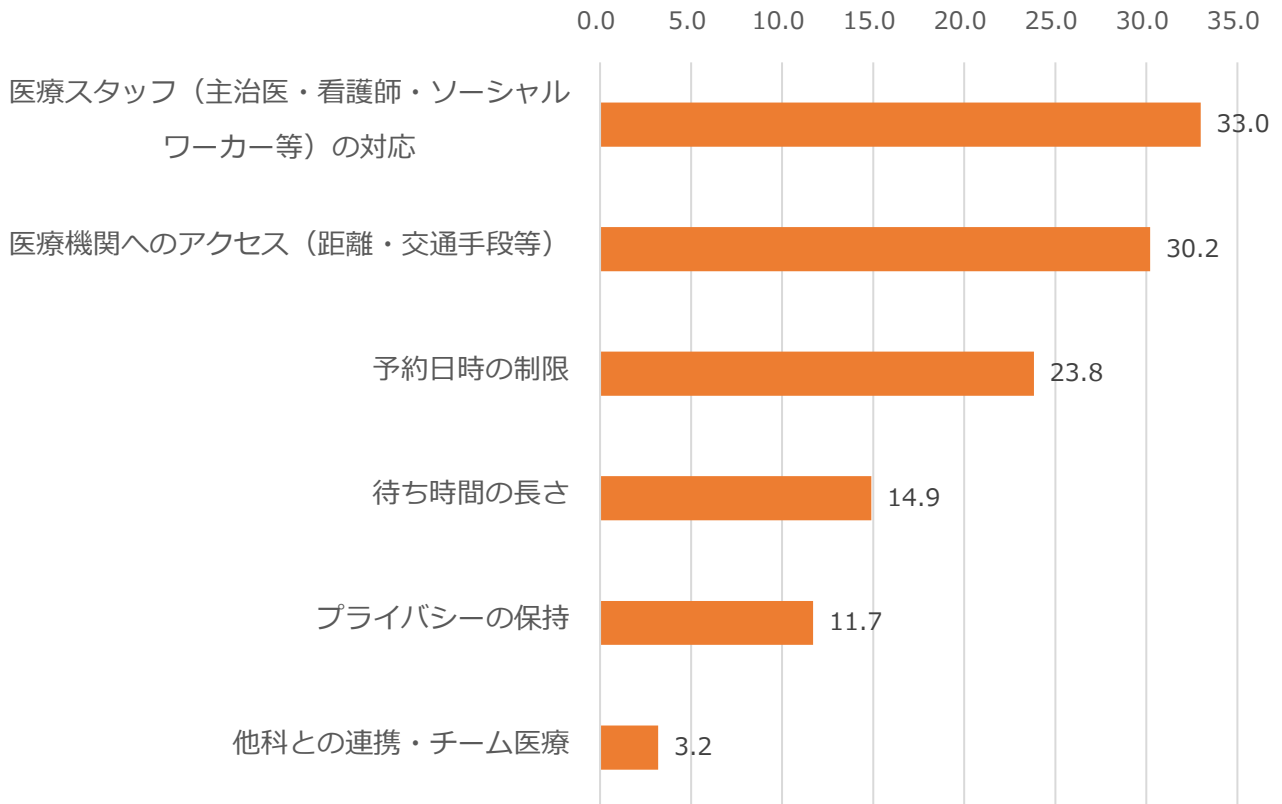


図3-8 不満足の原因 (n=94)



■ 合併症 (悪性腫瘍や認知障害 HANDS など) のリスク

HIV 陽性者の合併症のリスクが高いことを知っているかをお尋ねしたところ (複数回答可), よく知っている 209 人 (23.0%), 少し知っている 388 人 (42.7%), まったく知らない 310 人 (34.1%) でした (図 3-9)。また, 合併症に気をつけていることは, 「主治医に相談する」593 人 (65.3%), 「定期健康診断や人間ドックを受ける」258 人 (28.4%), 「予防接種を受ける」203 人 (22.4%) などでした (図 3-10)。

図3-9 合併症のリスクの認識 (n=908)

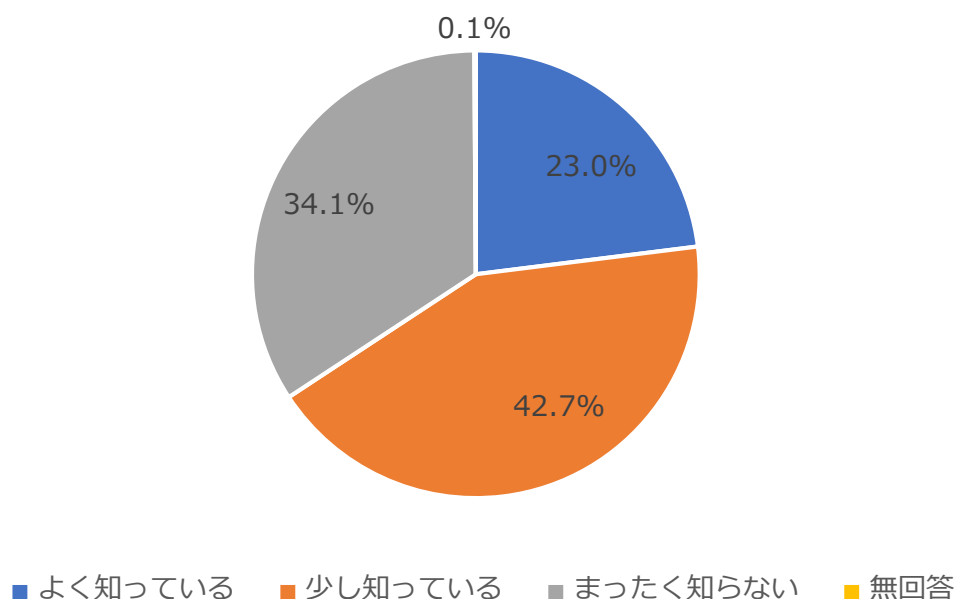
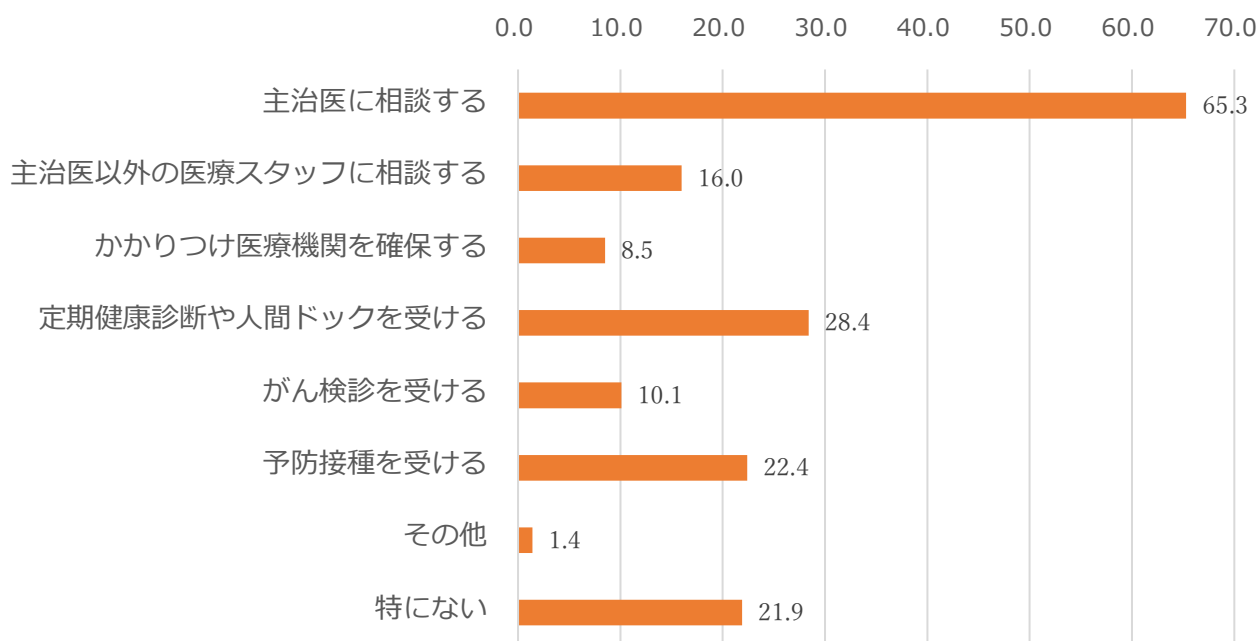


図3-10 合併症に気がつけていること (n=908)



■ かかりつけ医・かかりつけ歯科医への通院

かかりつけ医（風邪をひいたとき等，気軽に受診できる近隣の医療機関）がいる方は 423 人（46.6%）で，いない方は 485 人（53.4%）でした（図 3-11）。そのうち，かかりつけ

医へ HIV 陽性を伝えている割合は「伝えている」161人（38.1%）,「一部に伝えている」36人（8.5%）,「まったく伝えていない」226人（53.4%）でした（図 3-12）。また, かかりつけ医のいない方 485人のうち, かかりつけ医を必要としている者は 258名（53.2%）でした（図 3-13）。

かかりつけ歯科医がいる方は 505人（55.6%）で, いない方は 402人（44.3%）でした（図 3-14）。そのうち, かかりつけ歯科医へ HIV 陽性を伝えている割合は「伝えている」217人（43.0%）,「一部に伝えている」14人（2.8%）,「まったく伝えていない」274人（54.3%）でした（図 3-15）。また, かかりつけ歯科医のいない方 402人のうち, かかりつけ歯科医を必要としている者は 271名（67.4%）でした（図 3-16）。

図3-11 かかりつけ医の有無 (n=908)

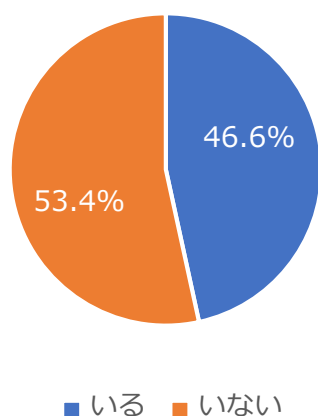


図3-12 かかりつけ医にHIV陽性を伝えている割合 (n=423)

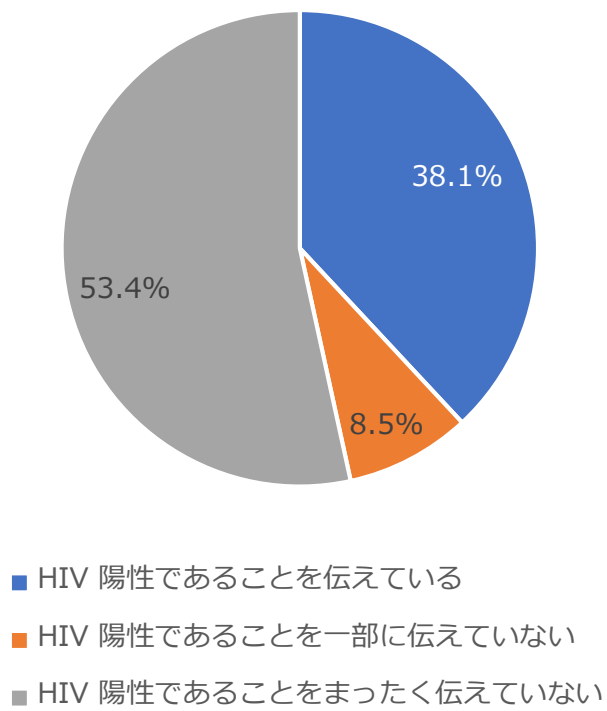


図3-13 かかりつけ医のいないものうち通院先を必要としている割合 (n=485)

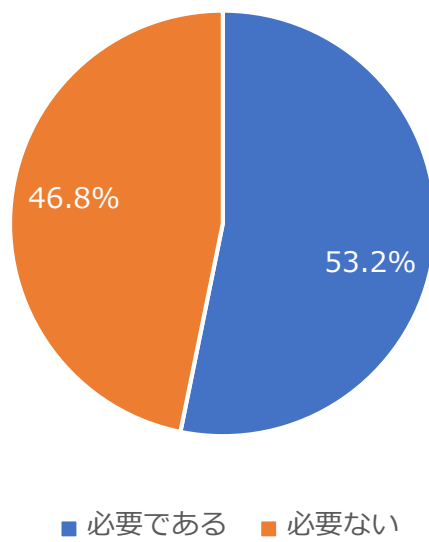


図3-14 かかりつけ歯科医の有無 (n=908)

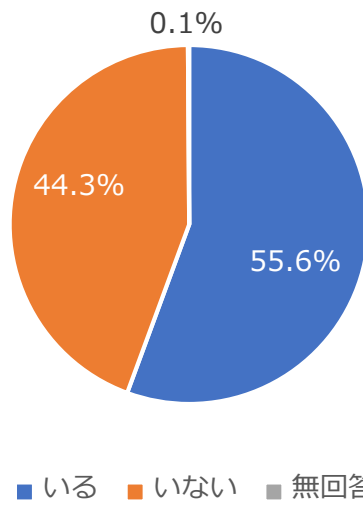


図3-15 かかりつけ歯科医にHIV陽性を伝えている割合 (n=505)

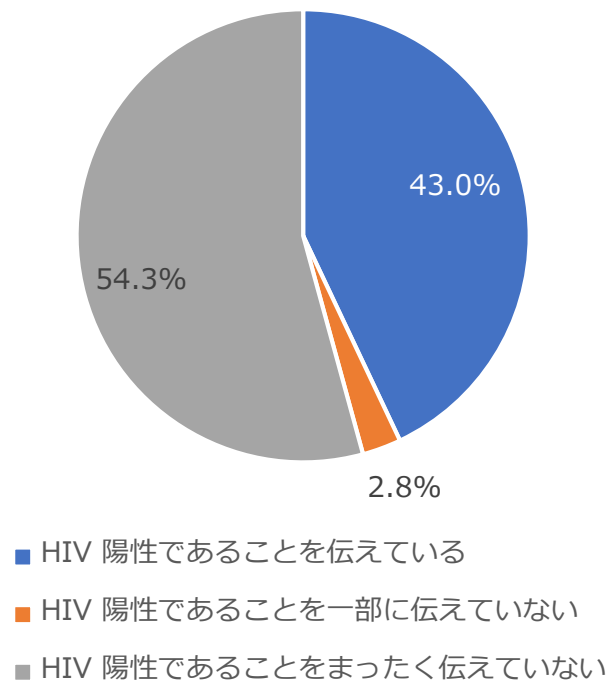


図3-16. かかりつけ歯科医のいないものうち通院先を必要としている割合
(n=402)

